

大学院社会人類学教室の渡邊欣雄ゼミ合宿レポート

大学院人文科学研究科社会人類学教室(渡邊ゼミ)では、伊豆大島において2007年11月23日から25日までの3日間にわたり、大島町元町を拠点として、発表形式のゼミおよび野外巡検を行いました。

11月23日、到着の夜からゼミは開始されました。ゼミでは今年度前期から読み進めていたテキスト内容を解釈して各人が発表し、それをもとに議論を進めるという形で行われました。南大沢で行う授業ではどうしても発表時間が限られてしまうため、途中で議論が終わってしまうことも多々ありましたが、大島でのゼミ発表では十分に時間がとれたため、各人がそれを時間を大いに利用し、充実した発表を行うことができました。

また、南大沢で行う授業とは異なり授業の合間や授業の終わった後で、元町周辺を散策したり、海辺まで行ってさわやかな海風にあたりながら思索にふけったりしました。このようにリフレッシュできる環境の中で、ゼミに対する集中力を維持し続けられたことも、今回の大島合宿で得られた貴重な経験のひとつではなかったかと思います。

もちろんゼミ発表だけではなく、2日目、3日目は発表の合間を縫って野外巡検も行いました。2日目は午前中発表、午後は波浮港周辺の巡検。3日目は郷土資料館の見学といった日程でした。波浮港周辺では、波浮港をはじめ、踊り子の里資料館(旧港屋旅館)、旧陣の丸邸、龍宮社、鉄砲場などを見学してまわりました。また、3日目は個人発表のあと大島町郷土資料館へ行き、大島の民俗文化を係員から直接レクチャーしていただくなど、3日間通して非常に充実した内容でした。

今回のゼミ合宿をより充実したもののひとつに、地元の方々との交流があります。われわれがちょうど合宿しているのと同じ時期に、首都大学東京主催のオープンユニバーシティが行われておりました。2日目の夜に、地元の方々、教員、大学院生、オープンユニバーシティに参加されている方々と、一同に話をする機会が得られたことも、今回のゼミ合宿の大きな収穫のひとつでした。



(地元の人々との交流会の中で話をする渡邊先生。)



(3日目に見学した郷土資料館に併設する古民家。)



(合宿に参加した全員での集合写真。宿舎の前で。)



(旧陣の丸邸の軒先で大島の民俗についてのレクチャー。)